

高貫町散策マップ

- ようこそ高貫へ -

高貫町は常陸太田市街の東方約3kmに位置し、その範囲は日立・高鈴ゴルフ場の南側を源流とする長谷川（茂宮川）および高貫川両水系に囲まれ、その面積は6.88km²を占めています。

このうち南側は台地、北部は山林に大別され、台地周辺は美しい水田地帯ですがかつては海であり自然の幸に恵まれ、縄文時代から生活を営んでいたという歴史ある地域です。その証拠として台地の南端部には集落跡や横穴古墳群が確認されていますが、法面補強のため現在は一部塞がれています。

また、昔からの鎮守とされている春日神社をはじめ、他集落で尊信する神社や、江戸時代中期以降の石碑・石仏なども多く残されています。このほか専門家による町内の植物調査では160種以上もの植物が確認されています。

一方、高貫川中流域には亀裂の発達した黒雲母片麻岩が分布し、この岩盤上を流れ下る多段の滝があって、この周囲では褶曲した地質構造が見られるなど面白い地域です。このほか、標高の高い台地からは太平洋が一望でき、四季折々の美しい景色も眺望できます。

なお、参考として町内に分布する地質の概要を模式的に色分けし、平面図及び断面図に表示しています。

その他の名所

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 高貫東横穴古墳群 | ⑩ 共同墓地の地蔵尊 |
| ② 春日神社跡 | ⑪ 天台宗壽福院寺跡 |
| ③ 高貫西横穴古墳群 | ⑫ 神社境内のスタジアム木柵 |
| ④ 高貫坂上の道路記念碑 | ⑬ 宮本家の水車跡 |
| ⑤ 高貫古墳群 | ⑭ 天神山下の道路拡張記念碑 |
| ⑥ 御陣屋の柴原 | ⑮ 岡の内堀とともじの紅葉 |
| ⑦ 岩井戸のホタルの里 | ⑯ 岡の内の溜池 |
| ⑧ 寺坂の梅と山桜 | ⑰ 滝沢の馬頭観音 |
| ⑨ 無名の木橋（2箇所） | ⑱ 屏風返しのか |
| ⑩ 群生する彼岸花 | ⑲ 長谷バツ |
| ⑪ 前田の大石様 | ⑳ 手持欄の旧鉱泉宿 |
| ⑫ 宮下のホタルの里 | ㉑ 北沢のため池 |
| ⑬ 長谷見張りの里山風景 | ㉒ 滝沢のため池 |
| ⑭ 如意輪観音（安産女人勝） | ㉓ 太田神社高貫村砂鉄収蔵庫 |



④前田の石仏群
(まえだのせきぶつぐん)



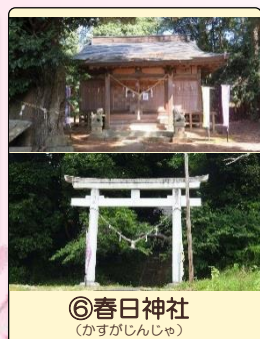
⑤寺坂上の馬頭観音群
(てらさかうえのばとうかんのんぐん)



⑦花園坂上の馬頭観音群
(はなぞのさかうえのばとうかんのんぐん)



③前田の美田
(まえだのびでん)



⑥春日神社
(かすがじんしゃ)



②素戔神社
(そがじんしゃ)



①八幡神社
(はちまんじんしゃ)



⑧野際のため池
(のざわのためいけ)



⑨天神山の天神様
(てんじんさんのてんじんさま)



⑪七曲山頂上の配石
(ななまがりやまのしょうじょうのはいせき)



⑩七曲山の山の神
(ななまがりやまのやまのかみ)



⑮滝沢の下滝・上滝
(たきざわのしもたき・かみたき)



⑬庚申塔と子安観音
(こうしんとくとこやすかんのん)



⑭山の神と雷神様
(やまのかみとらいじんさま)

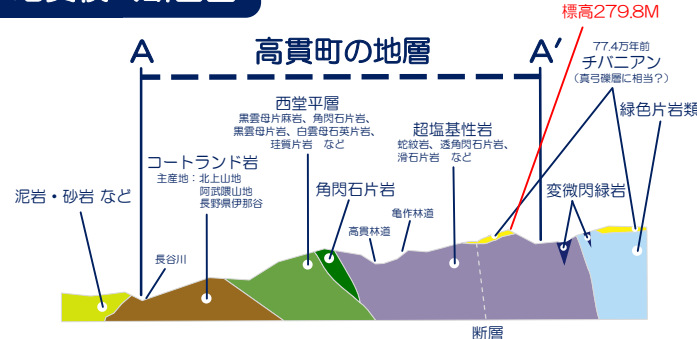


⑪天神山の十九夜尊
(てんじんさんのじゅうくやくそん)



⑫おふじごんげんさま

地質模式断面図



S-1 ~ S-8 岩石標本採取箇所 (岩石標本は高貫農村集落センター前に設置してあります)

※ 裏面に各名所の説明文があります。

2022年 高貫町会 高貫町お宝さがし実行委員会

～ 各 名 所 解 説 ～

① 八幡神社

(はちまんじんじゃ)

「八幡さん」と呼ばれており、下坪地域の氏神様として崇拝されています。創建は不詳ですが、かつて高貴にあったと伝わる嘉慶元年(1387年)創建の八幡社に由来するとの説もある。

その名残と思われる「子キ坂(ネギザカ)」と呼ばれる坂道が近くにあります。

② 素鷲神社

(そがじんじゃ)

創建年代は不詳ですが、素鷲神社・八坂神社の呼び名で親しまれており、牛頭(ごず)天皇宮あるいは天皇様と尊称していましたが、江戸時代に水戸藩の尊王思想の影響を受け、素鷲神社に改称されました。

③ 前田の美田

(まえだのびでん)

美田を潤す用水は五億年前の古生代カンブリア紀の地層が分布する前田川(茂宮川)の上流を源流としています。

田植え後の絨毯のような緑、蜚が飛び交う初夏、秋の紅葉期は特に素晴らしい眺めです。昔ながらの自然が残っていて健康づくりのウォーキングロードとして最適です。

④ 前田の石仏群

(まえだのせきぶつぐん)

泥岩の浅い穴の内外に8体もの石碑・石仏があり、さらに、その裏手の急斜面の上にも重要な石碑がある。

ここをかつて準主要道だった“カタネ道”が通っていた。

⑤ 寺坂上の馬頭観音群

(てらさかうえのばとうかんのんぐん)

“カタネ道”の一部をなす寺坂を上ったところに馬頭観世音ないし馬力神の石碑が3基並んでいる。

⑦ 花園坂上の馬頭観音群

(はなそのさかうえのばとうかんのんぐん)

こちらも“カタネ道”の一部をなす花園坂の屈曲部に馬力神などの石碑が4基集まっていて、全体として馬頭観音と呼ばれている。

⑧ 野際のため池

(のぎわのためいけ)

農業用のため池で、高貴ではいちばん大きなため池です。明治時代に造られました。川を土手でせき止め、入口横に2本のトンネルを掘り、1つはため池に水を引き入れ、一方では余水を導水して水車にも利用していました。排水塔を設け立樋工法という当時としては画期的な方法で必要時に水田に水を放流していました。平成4年、電動ポンプ場が設置されたため、立樋は役目を終えました。

⑨ 天神山の天神様

(てんじんさんのてんじんさま)

高さ70cm程の御影石が立っており、台座には古い硯石や筆箱などがお賽銭と一緒に供えられていて、昔から勉学の神様として祀られています。

⑩ 天神山の青面金剛尊碑

(てんじんさんのしょうめんこんごうそんひ)

大理石の石碑には、中央に「諸天部青面金剛容處」と刻まれていることから、この塚には青面金剛像が埋蔵されていると考えられます。また、その右側には「享保十三年戌申年」、左側には「九月吉祥日同行十九人」と刻まれており享保十三年、西暦1728年に建てられた事が分かります。

この背景には江戸時代中期以降盛んになった庚申信仰があり、庚申の日の夜には集落の人達が寄合ひ、眠らずに夜明けを待ったとされています。

⑪ 天神山の十九夜尊

(てんじんさんのじゅうくやそん)

首を傾げ柔和な表情をしているこの仏像は如意輪観音で、安産祈願の本尊であり、地元では十九夜様と呼んでいます。

江戸末期、西暦1861年に建てられました。野際地区の主婦達が集まる「月待」という習俗(後のユサンコ・遊山講)はこの十九夜待の名残と思われます。

⑫ おふじごんげんさま

日光神社と稲荷神社の二つの神が祀られています。現在は藤姓の氏神様として崇拝されています。

また、境内には11基の祠が鎮座しています。

⑬ 庚申塔と子安観音

(こうしんとうとこやすかんのん)

江戸時代後期に建立された二つ石仏で、子安観音は乳児を抱いた母親の石像です。

集落の主婦達が行っていた遊山講では、ここにお参りをしていました。

⑭ 山の神と雷神様

(やまのかみとらいじんさま)

江戸時代後期に作られた2つの山の神の祠があります。昭和20年代までは旧暦正月6日の「山入り」の朝に切り餅などが供えられていました。

また、これより30m程離れた山頂には雷神様と呼ばれていた石の祠があります。

⑮ 滝沢の下滝・上滝

(たきざわのしもたき・かみたき)

下滝は落差5m程の滝で、大きな滝つぼがあります。これは岩盤の破砕部が落水によってえぐられて出来たと考えられます。

これより300mほど上流には4段からなる上滝があり、全体の落差は10mほどあります。

⑯ 七曲山の山の神

(ななまがりやまのやまのかみ)

三面六手のすばらしい仏像ないし神像で、江戸時代中期の西暦1768年の建立です。基壇には高貴村ほか5つの村名が刻まれています。

⑰ 七曲山頂上の配石

(ななまがりやまちょうじょうのはいせき)

七曲山の最高点にあります。中心の山の神のような石の周りに8個の石が馬蹄状に並べられています。江戸時代に盛んになった富士講との関連が考えられます。

注 意 - CAUTION -

迷惑駐車禁止



民家の前や通行の妨げとなる場所での駐車はご遠慮ください

危険個所あり



地図上には危険な個所もありますので、十分にご注意ください

ゴミのポイ捨て禁止



高貴町の豊かな自然を守るため、ゴミの持ち帰りにご協力ください